

～助成活動を通じたひとづくり、社員のボランティア参加を推進～

## 第6回『TOTO水環境基金』助成団体を決定 10団体・計751万円を助成

TOTOグループでは、環境ビジョン「TOTO GREEN CHALLENGE」\*1として、商品・サービス、ものづくり、社会貢献・ひとづくりを軸に2017年度までの目標を掲げ推進しています。社会貢献・ひとづくりの一環として、第6回目となる「TOTO水環境基金」の助成団体を決定しました。

TOTO水環境基金は、社会貢献活動の一環として、2005年より「水環境の再生・保全」をテーマに設立し、これまで**87団体の活動に対し、総額13,003万円の助成**を行いました(進行中を含む)。

第6回目となる今回は、2010年5月1日(土)～6月15日(火)の間に95団体(対前年+17団体)より応募いただきました。助成団体を決定するにあたり、TOTOグループ社員で構成する「水環境基金選考委員会」を設置し、書類選考の上、現地に赴いて各団体へのヒアリングを実施。**選考のポイントとして、生物多様性の保全やCO2削減等地球環境保全への貢献度、TOTOグループ社員が活動に参加可能かなどの観点から、厳正なる選考を重ねました。**その結果、2010年度の助成先として、**10団体に合計751万円を助成することを決定**いたしました。

また、**環境に対する意識の高い「ひとづくり」を推進するため、より多くの社員が助成団体の活動にボランティアとして参加し、地域に密着した活動を行っていきます。**昨年度は、TOTOグループ社員470名(延べ人数)がボランティアとして参加し、**今年度は900名の参加を**予定しています。今後、「TOTO GREEN CHALLENGE」の達成目標の1つとして、各地域に助成団体を増やしグループ社員の参加機会を創出していくことで、**2017年度には、本活動に対し延べ16,500名の参加を目指します。**

### ■選考方法と選考基準

助成団体の選考はTOTOグループ社員で構成する「水環境基金選考委員会」が実施しています。

まず書類審査により助成候補団体を絞込み、選考委員が現地訪問し、応募いただいたプロジェクトについてのヒアリングや活動現場の視察などを実施。書類審査だけでは分からない熱意やプロジェクトの重要性、TOTOグループ社員のボランティア参加機会の可能性などを確認しました。

書類審査および現地でのヒアリング結果を踏まえ、選考委員会を開催し、2010年度は10団体(国内活動団体:9団体 海外活動団体1団体)に合計751万円を助成することを決定しました。なお、10団体のうち4団体については過去に助成を行った団体であり、地域に根ざした活動として今年度も継続して活動を支援していきます。

<選考基準>

1. プロジェクトが契機となり、地域で水と暮らしの文化に関わる新しい仕組みや事業を創り出す可能性があるか。
2. 地域の暮らしに根ざした活動で、継続性が期待されるか。
3. 生物多様性の保全、CO2削減等地球環境保全に寄与されるか。
4. 目的や内容が明確で、プロジェクトの必要性や重要性が高いか。
5. 実施手法や実施体制あるいは予算の面から、プロジェクトの実現性が高いか。
6. 地域に住む人びとが活動の中心となり専門家の参加や協力を得ることで、より高い効果が得られるか。
7. TOTOグループ社員が活動に参加できるか。

## ■2010年度「TOTO水環境基金」助成団体一覧

	プロジェクト名	団体名	活動地域	事業内容
1	仙台市内の小松島新堤沼 水質浄化作業(水辺の再生)	NPO法人 杜の都仙台ナショナルトラスト	宮城県仙台市	与兵衛沼や大堤公園の周辺となる新堤沼の水質を改善し、子供たちが安全・安心に遊んで学べ、四季折々の動植物の命と触れ合える生態系が維持される、自然環境豊かな親水公園の復活を目指す。
2	白子川源流の水辺環境保全と 湧水の町づくり	白子川源流・水辺の会	東京都練馬区	都内に湧水の水源をもつ唯一の一級河川である白子川の貴重な湧水と豊かな水辺環境の保全活動を行っている。今回、活動を開始して10年目を迎えることから、これまでの成果をもとに環境教育や啓発活動も実施する。
3	偕楽園・千波湖周辺環境体験 手漕ぎ船運航事業	NPO法人 WaterDoors	茨城県水戸市	千波湖や桜川で「環境体験手漕ぎ船」を運航し、水辺の観察などを通じて、市民や観光客に水戸市の水の都としての歴史を訴え、「水の都・水戸」のブランド化と水や船をテーマにした新たな地域活性化につなげる。
4	親子で楽しめる川遊び・学習の場作り	NPO法人 MY	岐阜県多治見市	岐阜県には海が無く子供たちが水にふれる機会が乏しいことから、大原川と宝親水公園を子供たちが安心して川遊びが出来る場・水と親しみ植物や川動物の学習、研究の場づくり等を計画し、市民による市民のための公共の場作りを実施する。
5	山のおいしさ学校・ 自然学校開校プロジェクト	高根フロンティアクラブ * 2008年度助成団体	新潟県村上市	源流域の集落の責任として、清流を次世代に受け継げるように、川での自然観察会、棚田を守る活動などを小学生から大学生までの若い世代と実施し、自然の大切さを学びながら、交流を通じて集落の活性化も図る。
6	松蔭高校 Blue Earth Project (高校部・大学部)	松蔭高等学校 Blue Earth Project (高校部・大学部) * 2009年度助成団体	神戸・大阪・滋賀・奈良 他	温暖化や水問題等を次世代を担う若者達が、持続可能な幸せな社会の実現に向け「青く美しい地球の一員」として、『水』をキーワードに、社会・企業の人々と交流しながら、世界の水問題を改善していく新たな仕組み作りを創造していくことを目指す。
7	飛鳥川と周辺の歴史的景観保全活動 を通じたまちづくり	景観ボランティア明日香 * 2007年度助成団体	奈良県明日香村	日本誕生の地、奈良県明日香村の歴史的景観を保全するため、国際作業キャンプ・日帰り作業などの景観修復作業を、ボランティア団体等による「協働作業方式」で実施し、地元集落が自発的にメンテナンス作業を行う仕組みづくりと地域おこしに貢献する。
8	水源の山からびわ湖の保全でピワマスの 泳ぐ川を作る	NPO法人 家棟川流域観光船	滋賀県野洲市	野洲市の水源の山・森・川・田畑、琵琶湖の水環境を保全して、野洲市の川を琵琶湖の固有種であるピワマスがかつてのように遡上してくる川に戻すことを目指す。
9	めざせ！紫川を日本一の清流にする プロジェクト 2010 ～“山”TO “水”TO“私たち中谷”水源再生事業～	中谷地区まちづくり協議会 * 2005・2007年度助成団体	福岡県北九州市	紫川および鱒淵ダムの水環境の再生・保全を目的に、竹炭を活用した環境保全活動に加え、新たな施策を実施することにより、水環境の再生・保全をベースとして地産地消や生物多様性の保全に、より効果的な成果が得られる活動を実施する。
10	ネパール農村地域の学校で使用される 飲料水の安全確保	NPO法人 ミランクラブジャパン	ネパール カトマンズ	水不足・飲料水の不衛生の問題を抱えるダルマスタリ村の学校に、水路を引くことで子供たちに安全な飲料水を供給し、また学校の水環境の整備を通して地域の生活の向上・活性化を目指す。

ご参考:各団体のより詳しい活動内容に関しては、2010年10月中旬にTOTOホームページ

「TOTO水環境基金」内で公開予定です。 <http://www.toto.co.jp/company/mizukikin/index.htm>

## ■選考のために実施した現地(活動現場)訪問風景



### 中谷地区まちづくり協議会

2008年7月に本助成金により「竹炭窯」を製作。  
地域の問題である「増殖した竹」を活用した環境保全サイクル活動を、地域の住民・企業などの協力によって推進する。  
また北九州市の水瓶である「鱒淵ダム」付近への竹炭の投与や、増殖した葦の伐採、堆肥化等の活動の他、環境啓発活動として、廃校の校舎を利用した1日環境学校を計画し、市内在住の小学生とその保護者を対象に、竹炭づくり体験や山の見学、中谷地区の歴史の講義なども実施する。  
さらに、竹炭栽培の地元野菜のブランド化を図り、地域の活性化につなげる。



### NPO法人 家棟川流域観光船

琵琶湖には毎日、川から大量のゴミなどが流入し、在来種の生息環境は損なわれ、生態系は大きく変わっている。  
これを修復するために、市民に水源の山や川の大切さをアピールし、森林などによる山や森の保全、ビワマスの遡上する川づくり、琵琶湖の魚が水田で産卵し、再び琵琶湖へ戻る仕掛けをする「魚のゆりかご水田」づくりなどを推進する。

## ■「TOTO水環境基金」設立の背景

TOTOの創業は、日本にまだ下水道がほとんど整備されていない時代に、「国民の生活文化を向上させたい」「健康で文化的な生活を提供したい」という一念から水洗便器の製造に着手したことから始まります。

TOTOグループは、水まわりを中心とした、豊かで快適な生活文化を創造することで、社会の発展に貢献する企業を目指しており、その企業活動は、社会の持続的な発展があって初めて成り立つと言えます。

大切な水資源を有効に活用し、未来に向けて社会が持続的に発展していくためには、節水技術の追求などを通じて企業サイドの役割を果たすことはもちろんのこと、NPOをはじめとする市民活動の果たす役割も欠かせません。

そこでTOTOは、よりよい社会を築き、地域社会との共生を目指して、2005年度より「創りだそう！水と暮らしの新しい文化」をテーマにした市民の取り組みを支援することにしました。

2010年度には環境ビジョン「TOTO GREEN CHALLENGE」をスタート、「社会貢献・ひとづくり」の柱の1つとして推進していきます。

### (※1)環境ビジョン「TOTO GREEN CHALLENGE」

TOTOは水まわりのトップメーカーとして、従来からの環境活動をさらに加速するため、環境ビジョン「TOTO GREEN CHALLENGE」を2010年4月よりスタートさせました。

詳しくは4月7日発行のニュースリリースをご覧ください。



TOTO GREEN CHALLENGE

## ■過去の助成団体の活動成果および協働の様子



団体名： ほのぼのビーチ茅ヶ崎  
テーマ： 茅ヶ崎海岸再生プロジェクト  
内容： 毎月、同団体が実施する茅ヶ崎海岸の  
清掃活動に参加。  
(2010年8月までの実績)

実施回数：32回 延べ692名参加

<参加者コメント>

朝の海はキラキラしていてとても気持ちよく、他の参加者の方とも目的を一つにした一体感があり、清々しい気持ちになれるイベントでした。また参加させていただきたいと思います。



団体名： 清水川湧遊会  
テーマ： 清水川湧遊プロジェクト  
内容： 2009年11月より開始した水路造成工事が  
2010年3月に完成し竣工式が執り行われた。  
これにより清水川が通年、水が流れる川と  
なり、子供たちの遊び場、憩いの場として、  
後世に継承することができます。  
(延べ36名参加)

<参加者コメント>

地元のボランティアの方々が水をきれいにしようと  
する地道な取り組みを地域ぐるみで行っているこ  
とで、景観が保たれていることに感銘を受けました。  
清水川の湧水があふれている情景を見ることを楽し  
みにしながら今後も活動に参加したいと思います。

以上に関するお問い合わせは下記までお願いします。

<TOTO 広報部>

本社広報グループ 担当：箭野（やの）

北九州市小倉北区中島2-1-1 TEL:093(951)2901

東京広報グループ 担当：藤田

東京都港区虎ノ門1-1-28 TEL:03(3595)9422

<お客様からの問合せ先> お客様相談室 TEL:0120(03)1010

<TOTOホームページ> <http://www.toto.co.jp>

<水まわりのまめ知識「ティドビット」> <http://www.toto.co.jp/tips/tidbit/index.htm>

このリリースは、北九州経済金融記者クラブに投函しています。また、TOTOホームページでもご覧いただくことができます。